【公開講座報告】

平成 24 年度科学研究費補助金研究成果公開促進費による公開講座報告

潮田ひとみ

兵庫教育大学大学院学校教育研究科

１．はじめに

被服衛生学部会による科学研究費による公開講座は、平成 16 年度に開催された後、申請・開催されていなかった。公開講座の企画・開催は、部会企画が中心となって行うこととされている。幹事は 2 年任期でメンバーが替わることもあり、申請と開催に関して、いくつか留意事項を記しておきたい。

２．申請

科学研究費補助金研究成果公開促進費は、学会事務局から提出することになる。提出先も学術振興会ではないため、締め切りは、通常の科研費の締め切りよりも 10 日ほど後になる。公開促進費は、学会からはひとつしか提出できないとされており（平成 23 年度申請時）、複数提出された場合は、理事会で決定されると思われるため、部会として申請することを決めたら、早い時点で学会事務局に電話等で名乗りを上げておく必要がある。

被服衛生学部会では､過去の公開講座にならい、「衣服と健康の科学、最前線」をテーマとし、サブテーマはその時の事情に合わせて設定してきている。平成 23 年度は、部会創設 30 周年であり、記念事業として、「アパレルと健康」を年度末に出版する運びとなっていた。進行中の企画を使わない手はない。そこで、まず、この本の内容と関連したサブテーマと講演者を設定することにした。次に、企画幹事が実行委員長となって東日本大震災の後に開催された､平成 23 年の被服衛生学セミナーでの「被服衛生学部会として、私たちは何かができたのではないか｣という不完全燃焼感、更に企画代表幹事がいる兵庫県で開催することなどをあわせて考えることによって、サブテーマも見えてきた。

過去の申請書の使用できる部分は可能な限り使用し、サブテーマと場所にあわせていくつかの文言を変更するだけで、会の目的、プログラム等はそれほど大きな労力をかけることなく、作成できたことから、継続的な申請と引き継ぎが重要であると感じた。

研究成果公開促進費は、経費の使用範囲と使用用途が限定されるため、過去の申請書の予算欄はとても参考になった。しかし、開催場所によって、会場費が大きく異なるため、会場費に関しては、開催地にあわせて、ある程度調査しておく必要がある。また、申請書に記載した会場と日時については、変更の場合に、修正申告書と理由書を提出しなければならないため､会場と日時については、申請前に検討しておいた方がよい（良かった）と思われる。講演者については、申請時に同意を得ておいたほうがよいのはもちろんであるが、部会の成果を公開するものであるから、講演者は部会員である。そのため、時間的制約もあり、申請時には、講演予定者への同意を得ることなく申請したが、依頼した部会員の皆様には快く講演をお引き受けいただけたことに深謝したい。

３．採択後

研究成果公開促進費が採択されたかどうかの連絡は、4 月に入ってからになる。この報をうけて、数週間以内には、本部経由で受理する旨の申請書を提出しなければならない｡採択が決定して、すぐに会場を押さえようとしたが、申請した会場は 1 年前から予約可能であり、すでに予約が入っていた。そのため、会場を変更し、申請書と変更届をあわせて提出した。実施のための銀行口座は学会長の名前で本部が開設することになる。口座に科研費が入金され、使用できるようになったのは、今回は種々のトラブルから、11 月頭となった（通常は 7 月初旬）。家政学会年次大会中に開催される被服衛生学部会総会にて、採択の報告、内容の報告、講師の依頼、実行委員会の設置とメン

バーなどを報告した。その後、フライヤーの作成（部会報送付時に部会員に同時封入してもらえるように編集に依頼、1 月中に完成）、講演者への原稿依頼（年末に依頼、1 月末締め切り、3 月頭に完成）、会場との打ち合わせ（予約 4 月、支払いとマイク、液晶プロジェクタなどのレンタル個数の確認 11 月末）、講師、顧問、実行委員の交通経路と交通費の調査（1 月頭）、アルバイトの手配、昼食、夕食等の準備（12 月）、フライヤーの会場への配布、近県の高等学校への送付、各学会誌掲載の依頼・報道機関への依頼(2 月)などが開催までの準備事項である。開催日から逆算して、ぎりぎり間に合うという日程で行ったが、早めに動いたほうがよいことは言うまでもない。

４．公開講座

公開講座は、平成 25 年 3 月 16 日に以下にように、開催した。

平成 24 年度　日本家政学会被服衛生学部会
科学研究費補助金研究成果公開促進費による公開講座

衣服と健康の科学、最前線
－ここまでできる、衣服の力を考える－

日　時：2013 年 3 月 16 日（土）
場　所：兵庫県民会館 11 階パルテホール
参加費：無料

開会挨拶　　成瀬　正春（金城学院大学）
人の健康に影響を及ぼす衣服
　　平田　耕造（神戸女子大学）
健康の条件　　深沢太香子（京都教育大学）
暑熱時のヒトの生理反応と衣服による暑さ対策
　　諸岡　晴美（京都女子大学）
災害と安全・安心な衣服・寝具
　　水野　一枝（東北福祉大学）
災害時の衣食住　　久慈るみ子（尚絅学院大学）
備蓄用衣料について考える
　　小柴　朋子（文化学園大学）
災害から身を守るための衣服に関するワークショップ－「家政学からの提言－震災に備えて」を用いて－
閉会挨拶　　諸岡　晴美（京都女子大学）

事前の広報不足もあり、一般参加者は少なかったが、参加者のアンケートは概ね好評であった。南海トラフ地震等のことを考慮すると、兵庫県と隣接する高等学校にのみ配布したが、近畿一円に配布したほうがよかったかもしれない。

５．公開講座終了後

公開講座の終了後、30 日以内に実績報告書を提出しなければならないことになっている。開催が 3 月 16 日であったため、口座の解約を含めて 2 週間以内に執行しなければならなかった。最終的な口座の解約は学会本部が行うため、開催した証左として要旨集、フライヤーを提出し、指定された形式で会計ファイルを作成し、使用したすべての領収書類を添付した。その後、本部から文科省に提出されたが、会計に関しては、厳密に精査された。震災に伴う特別課税による税額の変更、実行委員会のメンバーと交通費との厳密なチェック、（納品書ではなく）領収書の提出など、本部と会計担当は連絡を密にしておく必要があった。

６．おわりに

事前・事後に関しては、やらなければならないこと、やらなければならなかったのにできなかったことなどが思い浮かぶ。しかしながら、当日は、講師・顧問・実行委員先生方にすべて安心してお任せできたことに御礼を申し上げる。

また、公開講座の申請から開催にあたり、いろいろな場面で部会員の皆様にはご協力、励ましをいただきました。皆様に心より感謝申し上げる。

実行委員会

委員：潮田ひとみ（委員長）
　　小柴朋子（副委員長）
　　平岩暁子、船津美智子、水野一枝
　　（被服衛生学部会企画幹事）
　　乾眞理子、井上真理、今村律子、柴田祥江、
　　高野倉睦子、中原香利、花田美和子、
　　深沢太香子、細川喜久代、緑川知子、
　　與倉弘子
顧問：成瀬正春、諸岡晴美、杉本弘子、平田耕造、
　　菅井清美、平林由果、三野たまき

＜連絡先＞
〒673-1494　加東市下久米 942－1
兵庫教育大学大学院学校教育研究科　潮田ひとみ
電話：0795-44-2194　FAX：0795-44-2194
ｅメール： hitomiu@hyogo-u.ac.jp